

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会議名	第2回姫路市立高等学校在り方審議会
2 開催日時	令和3年8月17日（火曜日） 15時00分～17時10分
3 開催場所	姫路市役所 10階 大会議室
4 出席者	（出席者）姫路市立高等学校在り方審議会委員15名 （事務局）教育長、教育次長、教育総務部長、教育企画室長、学校教育部長、 総務課長、学校施設課長、教育企画室主幹、学校指導課長、 人権教育課長
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人0名
6 次第	1 開 会 2 挨 拶 3 議 事 （1）姫路市立高等学校について （2）アンケートの実施について 4 連絡事項 5 閉 会
7 会議の要点内容	以下のとおり

事務局	<p>1 開会</p> <p>第2回姫路市立高等学校在り方審議会を開会する。</p>
教育長	<p>2 挨拶</p> <p>(教育長挨拶)</p> <p>本日は、姫路市立高等学校在り方審議会に御出席いただき誠に感謝している。</p> <p>平素は、本市の教育行政の推進に多大な御支援をいただいていることを、改めて感謝申し上げます。</p> <p>前回の審議会においては、国の動向や県の状況について委員の皆様と共有させていただき、様々なご意見をいただいた。</p> <p>本日は、2つの議題について御協議いただきたいと考えている。</p> <p>1点目の「姫路市立高等学校について」に関しては、市立高等学校3校の現状を踏まえながら、高等学校教育のさらなる充実に向けて必要となる視点や、少子化が進み学級数の減少が見込まれる中、高等学校教育が今後どうあるべきか、また、現在の市立高等学校3校が有する課題等について、皆様の御意見をいただければと考えている。</p> <p>2点目の「アンケートの実施について」に関しては、これから高等学校に入学する中学生とその保護者や、現在高等学校に通われている高校生とその保護者や3校の卒業生の方々の高等学校教育に対する意見を伺い、審議の参考としたいと考えており、アンケート内容について御意見をいただきたいと考えている。</p> <p>委員の皆様においては、それぞれのお立場から、様々な御意見や御提案をいただきながら審議を進めていただければと考えている。よろしくようお願い申し上げます。</p>
事務局	<p>会議成立報告</p>
事務局	<p>前回審議会に関する追加説明（市立高等学校の成り立ち、スクール・ミッションの再定義）</p> <p>(公開可否の決定)</p>
会長	<p>本日の審議会は、異議がなければ公開とするがよいか。(異議なし)</p> <p>異議なしと認めて公開とする。</p>

<p>会長</p>	<p>(第1回会議録の確認)</p> <p>第1回審議会の会議録について修正等の意見はあるか。(意見なし)</p> <p>会議録として決定する。</p>
<p>会長</p>	<p>3 議事</p> <p>(1) 姫路市立高等学校について</p> <p>事務局からの説明を求める。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料1「姫路市立高等学校について」及び資料2「現状と課題について」を用いて説明</p>
<p>会長</p>	<p>市立3校の校長先生がいらっしゃるので、補足などお願いします。</p>
<p>委員</p>	<p>姫路高等学校の校訓の一つに師弟一體というのがあり、それが学校の特徴を表していると思う。生徒と教師が一緒になって課題を解決していこうという風土がある。校舎内の土足使用は昭和28年から続いており、無人購買部も昭和38年から続いている伝統である。最近では、生徒会から申し出があり、昨年から今年にかけて校則の見直しを行った。</p> <p>本校の生徒を表すのに「姫高生する」という言葉がある。これには3つあり、1つ目が、勉強だけでなく学校行事や部活動を一生懸命取り組むこと。2つ目が、気持ちのこもった挨拶ができること。3つ目が、校歌に愛着を持ち、大きな声で歌うこと。この3つが基本になり、忙しいけれど、充実した高校生活を送ることができる学校である。一番高校らしい高校である。学校の教育目標は、「自らの力でじっくり考えて、正解のない問題に立ち向かう生徒を育てる」である。先行き不透明で、何が起こるかわからない時代にいるので、自分で考えて行動する、まさしく探究心を養うことが大切だと考えている。国際感覚を養うことについても昔から伝統があり、昭和63年から25年間韓国に修学旅行へ行っていた。公立学校としては県下で初めて海外修学旅行を行った学校だと聞いている。その後3年間は沖縄に行ったが、平成28年から台湾に変更し海外への修学旅行を続けている。去年は新型コロナの影響で行けておら</p>

ず、今年も無理な状況である。

続けて、資料1の補足をする。(1)所在地については、JR姫路駅からバスで15分、播磨高岡駅からは自転車で15分、野里駅からは自転車で20分の場所にある。59の中学校から712人が通っており、自転車通学が8割となっている。高台という立地から、過去に1件の死亡事故がある。(2)沿革については、昭和14年に現在の姫路城内の千姫ぼたん園に設立され、今年で82年目である。当時、この地域には姫路中学校しかなく、中学校の志願者数がとても多かったため、姫路市民の悲願で設立したと聞いている。昭和22年に今の城乾中学校がある八代校舎へ移転し、昭和47年に現在の場所に移転している。平成15年にできたサイエンスキャリアコースは当時科学技術創造立国が提唱されたことに加え、女子が多かったので、男子を獲得したいということもあり、理系のコースを開設した。その後、これからの時代は理系だけに偏るのではなく、文理融合型ということで、平成27年に探究科学コースに改編した。(3)設置学科については、探究科学コースは月・火・木と週3日7時間授業をしている。アドバイザーとして兵庫県立大学の教授、また非常勤講師として企業の社長に毎週1～2時間来てもらっている。1年生では、先輩のテーマで再探究やSDGsのテーマでグループ探究を行う。2年生では、生徒1人に対して教師1人が担当者として付いて、個人探究を行い、3年生では教科の探究を行っている。(4)募集定員については、平成16年に320人8学級から280人7学級に減少し、平成29年に現在の240人6学級に減っている。(5)倍率については、今年実施した探究科学コースの説明会では中学3年生123人、保護者93人の参加があった。今週の19、20日にオープンハイスクールがあるが、2日間で中学3年生が848人、保護者が480人の参加予定となっている。(7)学校の規模については、パルナソスホールは椅子が備え付けてあることに加え、冷暖房も完備しているため、各種学校行事で使っている。(8)大学合格等実績については、国公立100人、関関同立100人の合格を目標としている。国公立の100人に関しては学級数が7学級から6学級に減っても維持をしている。大学別でいうと、京都大学は数年に1人、大阪大学は2年に1人、神戸大学はほとんど毎年合格している。就職はほとんど公務員で、昨年の民間企業への就職は0人であった。(9)部活動については、学級数が減ってきているので、専門の顧問が不足してきている。

次に課題としては、昭和47年建設の建物なので、校舎をはじめ色々な施設が老朽化している。電子機器の増加によって電気容量も不足している。また、電子黒板が入ってきたので、教室がとても狭くなっている。特別教室はエアコンが未整備なので、

委員

暑いときは熱中症で倒れる生徒がいる。教員人事については、市立3校での異動が中心であるので、県立高等学校との人事交流が少ない。また、県教育委員会に対して市立高校の要望が実現しにくい状況にあることから講師が多くなっている。特色を出すためには、人と金が必要ではないかと思っている。

最後に、いつも中学生への説明会で、姫路高等学校の自慢は何ととっても良い生徒であると言っている。中学生が行きたい、保護者が行かせたい、教職員が働きたい学校であると校長としては自負している。

琴丘高等学校は今年で創立108年となり、多数の同窓生がおられる。実際その方々から学校に対する支援をいただいております、卒業生のバックアップを私自身非常に感じている。

本校は、国際文化科という専門学科を設置している。当初は英語科からスタートし、時代の流れに応じて、英語だけではなくグローバルな視点をとということで国際文化科に改編した。これが本校の一つのカラーである。ただ、保護者としては最終的には地元に残ってほしいという思いもあると思うので、学校の方向性としては、国際文化科ではあるが、それを生かしていくうえでは地元の伝統文化をしっかりと理解させていこうということに少し視点をシフトさせてきた。例えば、先日新聞でもご紹介いただいたが、姫路城の障子紙を漉いて張る活動を行った。生徒だけでは難しいので、名塩紙技術保存会の方にご協力をいただき、紙の材料の採取なども行った。この活動は、今年で3年目となっており、世界文化遺産である姫路城を擁する市に住む者としての自覚を生徒たちに植え付けていこうということで行っている。

生徒の進路についても多様である。部活動が非常に盛んなので、運動部の生徒は自分自身が怪我になった時にお世話になった医療系の技術を身に付けたいということで、それに関連する専門学校へ進学する者も多い。また、国公立を目指すだけでなく、地元に残るような手立ても取っていかうと考えており、兵庫県内の私立と連携を図っている。現在は、英語教育を核にしながら甲南大学と連携しており、このような取組を行うことで、最終的に大学卒業後も姫路に残って姫路の中で活躍する生徒の人材育成をしていきたい。

また、本校の生徒は非常に素直であり、教師の生徒に対するケアも非常に丁寧である。保健室の養護教諭の活動もしっかりされており、配慮が必要な生徒に対して十分対応ができていると自負している。

なお、国際文化科は海外ではなくて、地元で活かす国際文化の学びということを数年前から打ち出しており、生徒や中学生にも説明している。本校の場合は、幸い中学生が目標としやすい高校ということで、志願倍率もかなりの数字が残せている。今年度のオープンハイスクールは2日間で938人が参加予定で、第4学区の中で一番多くの数字を出すことができている。国際文化科の体験入学についても生徒120人、保護者75人の参加があった。

先日、国際関係の校長会で色々な状況を聞く中で、国際関係の志願者はかなり減ってきており、定員割れとなっている学校もたくさんあるとのことだった。幸い本校の場合は定員を維持している状況ではあるので、今後も継続していきたい。

環境面で課題と思うが、通学路が非常に狭い。姫新線の踏切から校門近くは、荒川地域の抜け道となっているため、朝の渋滞がひどく、生徒たちの安全な登校には課題がある。建物についても、山沿いに一直線と変則的な建て方であり、移動にはかなり苦勞する。また、エレベーターの設置がないため、今後、施設を考えていく上では改善が必要と思う。

委員

学校案内に基づいて説明させていただく。

飾磨高等学校は、1942年に飾磨市に唯一の女子高として設立された兵庫県飾磨高等女学校から始まり、今年で79年目を迎える。1学年の定員は普通科5学級、健康福祉コース1学級の合計6学級240名である。健康福祉コースは平成15年に開設され今年で19年目となる。教育目標は地域に貢献できるグローバルな人材の育成で、校風は飾らず磨け高邁の精神をモットーに明るく伸び伸びとした気風である。

学校案内2ページにあるとおり、指導指針として、ワンランク上の進路実現を達成するために、学力、部活動、キャリア教育の3つの充実を基準に取り組んでいる。多様な考え方に対応できる対話力を身に付けるために、授業だけではなく様々な学びの場を体験できるようにしていることが本校の特色である。

3ページの今年度の教育課程については、1年生は国語総合、数学Ⅰ、英語表現Ⅰ、化学基礎において少人数授業を行い、きめ細かな指導を行うことにより、基礎・基本の定着を重点に置いている。2年生からは多様な進路実現に向けて文系・理系に分かれて授業を行っている。主な進路としては、姫路をはじめ地元で貢献したい、させたいという生徒・保護者の願いが強く、家から通える大学を希望する生徒が非常に多い。また、消防士や警察官、看護師を目指す生徒も多くおり、そうした希望に沿うことが

できるようにたくましい生徒を育成することを心掛けている。民間企業の就職は毎年10数名が希望し、地元の大企業をはじめ、順調に就職をしている。

健康福祉コースは、介護職員初任者研修、ガイドヘルパー、手話検定、福祉住環境コーディネーター、食生活アドバイザーなどの資格をはじめ、地域に介護福祉で貢献できる力を身に付けることができるコースではあるが、その進路は福祉の大学や専門学校、就職だけではなく、コースで学んだ介護福祉の基礎・基本、福祉マインドを基に医療関係を中心に普通科文系と同様に様々な進路に進んでいる。令和3年度の健康福祉コースの志願倍率については0.80倍と初めて定員を割った。原因としては、新型コロナウイルスによるものが大きいと思っている。中学生の福祉施設におけるトライやるウィークの中止や福祉施設でのクラスターの発生、丁寧な中学校訪問ができなかったことに加え、志願倍率が高い年の次年度は倍率が低い傾向にあることなどが重なったものではないかと考えている。今年度、姫路市内全ての中学校を訪問し、本校の魅力と特色を説明したところ、中学生は福祉や介護の必要性は理解し、興味や関心を持っていることが分かった。実際、8月3日に行われた健康福祉コースの説明会には、定員40人に対して94人の中学生が参加している。オープンハイスクールにおいても240人定員のところ、2日間で520～530人が参加予定となっている。

5～6ページには、本校の特色について掲載しており、キャリア教育は本校の特色で様々な学びの場を用意している。9～10ページには学校行事とクラブ活動について掲載している。クラブ活動は本校の伝統であり、文武両道で努力して知力・体力・自らの個性を伸ばす環境がある。国際理解教育についても取り組んでおり、短期留学、長期留学、ディベートコンテストなど様々な体験を積むことができる。主な活動に積極的に参加した生徒の中には、在学中に英語検定準1級を合格した生徒もいる。

8ページにはボランティア活動、生徒会活動、生徒支援制度について掲載している。ボランティア活動では、小学生に手話や勉強を教えたり、吹奏楽部など文化部長が姫路市の様々なイベントに参加している。また、生徒会も活発に活動しており、主なものとして市立高等学校生徒会サミットを開催している。これは、市立3校の生徒が中心となり、全国の市立高等学校に呼びかけて行っているもので、昨年度からはリモートで北は北海道から南は鹿児島市の市立高等学校20数校と交流した。また、IPPOといった生徒に対する学びの支援制度もある。最後に、飾磨高等学校には松風寮という冷暖房完備の宿泊施設があり、クラブの合宿などで使用している。

会長	<p>3校ともこれまでよく努力されており、特色化を確実に図っている。これまで培ってきたものをぜひ次に生かしていく必要がある。それとともに、現状と課題で説明があったように、Society5.0の実現に向けた社会の変化に対応できる人材の育成は、国としての最重要政策課題であるので、そういう人材を育成しなければならない。また、少子化や財政のことも考えなければならない。もう一つ、印象を申し上げますと校舎が古く、築50年前後というのはかなり厳しい。そういうことを踏まえて、今後の姫路の学校をどうするかについて、委員の皆様から忌憚のない御意見、御質問等をいただきたい。</p>
委員	<p>琴丘高等学校と飾磨高等学校は地元貢献する人材の育成が最終的な目標とのことだが、姫路高等学校の地元貢献はどのようなものか。</p>
委員	<p>大学等では都会に出て行くが、最終的にはこちらに帰ってきて、市役所や小中学校で多く働いており、そういった面で地元貢献をしている。</p>
委員	<p>市立高等学校として地元貢献する人材を育てていくということが共通しているということがよく分かった。今後考えていくうえでも、そのあたりは視野に入れたほうが良い。</p>
委員	<p>姫路・福崎地域から来る在校生の割合は、姫路・飾磨高等学校は90%台、琴丘高等学校は80%台となっている。これは、姫路・飾磨は学区の縛りがあるが、琴丘は学区を越えて来るからという理解でよいか。また、飾磨高等学校の健康福祉コースと姫路高等学校の探究科学コースの卒業時の出口はどうなっているか。</p>
委員	<p>琴丘高等学校の国際文化科は全県学区となっているが、通学のことを考えると西播地区が基本となる。播磨高岡駅から歩いて10分、神姫バスの最寄りのバス停から徒歩5分の距離にあるという利便性から、山崎方面の生徒など、姫路・福崎地域以外の生徒は若干多い。全県学区といいながら、第3学区から通学してくる生徒はまずいない。交通の利便性でいえば、市立3校の中で一番良いので、その点から言うと、少し郊外からでも通える立地にあると思う。</p>

委員

姫路高等学校の探究科学コースの出口については、文系・理系のどちらもいるので、普通科のクラスと大きな違いはない。ただ、2年生で個人探究をするので、そこで探究したことに関連した大学や学部を早い時期から志望するという傾向はある。例えば、虫の探究をしたので、そちら方面に進んだり、船のことを研究して、船の機械の方面へ進んだりした者もいる。

委員

飾磨高等学校の健康福祉コースの出口については、40人中5人程度が大学も含めて介護福祉関係に進んでいる。福祉マインドや介護福祉は医療につながっていることから、残り35人程度は医療関係を中心に4年生大学や専門学校に進学している。

委員

資料2の姫路市の財政状況を見て考えていることをお伝えする。姫路らしさを出そうとする場合、唯一無二というか、似て非なるものであることが非常に大事で、そのことによって、生徒に愛校心を持たせることができるだろうし、地域からも信頼されるものになると思う。ただ、今の予算状況を考えると、今後策定するスクール・ミッションやスクール・ポリシーの具現化が実際にできるのかということが気になる。

委員

中核市の中で市立高等学校を3校設置しているのは姫路と鹿児島だけとなっている。半数が市立高等学校を持っていないことを考えると厳しい状況と思う反面、全国で2つしかない市の中の1つという誇りも感じる。かつては政令指定都市を目指していたわけなので、もう少し教育にお金をかけるべきではないか。明石市が子育て・教育に力を入れて人口が増えている状況を見ると、姫路市もそういったところに力を入れてもらいたいと思う。

それから、校長先生方が、地域で活躍する人材の育成をしていると言われたことは本当にうれしい。研究部門では産官学というが、人材育成に関しても産官学という考え方も必要なのではないか。姫路市としても少子化が進み、人口が減っていく状況を食い止めたいところではあるし、企業としても姫路はものづくりの町で魅力的な企業はたくさんあるにもかかわらず、意外と地元の子が勤めていない状況にある。姫路市も、一度都会の学校へ行ったとしても姫路へ戻ってきて姫路で勤めるように力を入れてほしい。産官学の学の方も、姫路市教育振興基本計画のメインテーマが、ふるさと姫路の未来をひらく人づくりということなので、地域を盛り立てていくことができる人になるか、そういう子供たちを育ててほしい。そういったところを考えた時に産官

	<p>学で協力し知恵を出し合って、何とか地域の学校としての市立高等学校を盛り立てていくような方向性で頑張ってもらいたいと願う。</p>
委員	<p>琴丘高等学校の国際文化科の目標が、地元で活かす国際文化の学びということであるが、高校生活の中で実際にどういった活動をされているのか教えてほしい。</p>
委員	<p>1つは先ほど申し上げた姫路城の障子張りを行っている、また、小高連携については3校と関わりがあり、特別支援学校との交流も進めている。そのほか、市役所からの申し出に応じて、色々な地域の行事に参加している。また、今は新型コロナの影響で減っているが、毎年海外姉妹都市交流で来日した短期留学生の生徒に対して姫路城の案内も行っている。</p>
副会長	<p>3校の男女比率を教えてください。女性が多いということであれば、女性支援というような観点からも学校像を考えていく必要があるのかなと思う。</p>
委員	<p>姫路高等学校の男女比は大体6：4である。</p>
委員	<p>琴丘高等学校の男女比は大体6：4である。</p>
委員	<p>飾磨高等学校の在籍生徒は703人中、女子が422人、男子が281人で大体6：4となっている。</p>
委員	<p>3校それぞれの学科やコースについて、学級数を増やしたり、現在のニーズを踏まえてITに特化したコースを設けるといような柔軟な対応はできるのか。</p>
委員	<p>探究科学コースを増やすことが可能かということについては、今と同じような教育内容を維持するには、1人の生徒に1人の教師をつける必要があるため、教員が倍になるならば可能である。</p>
委員	<p>国際文化科については、特別な専門科目を多く設置しており、少人数授業を行っている。そのため、学級数を増やした場合には教員の数がさらに必要となり、財源の関</p>

	係で配置が難しいといった制約がある。
委員	昨年度の推薦入試において、福祉関係は県立高等学校も含めて定員割れが起きている。健康福祉コースについては、学級数を増やすよりも、現在の施設設備をより充実したものにすることをまずはお願いしたい。
委員	生徒からすれば、県立であろうが、市立であろうが、公立高等学校という意味では、ある意味同じである。そのような中で、市立高等学校を選ぶとなればやはり地域に密着した特色ある教育課程があるから行こうとするのだと思う。市立高等学校として、地域に貢献できる人材を育成していくとなれば、お金をかけて人を育てていくのか、それとも予算が限られているのであればどういった形でやっていくのかといったある程度の方向性を含めて考えていく必要がある。
会長	客観的に状況を踏まえなければならない。少子化により高校生が減る中で、3校を維持した方が良いのかどうか。一定規模がないと学校として十分な活動ができないが、3校を維持した状態でできるのか、学校数を減らし規模を拡大した方が良いのか。また、施設を改修・改築しようとする、莫大なお金がかかる。ある意味全面的リニューアルをした方が安くつく可能性もある。特色としては、Society5.0やSDGs、地元で活躍する人材の育成など、できれば県にないようなものを打ち出す。これまで3校それぞれがやってきたことがあるので、そういうものも生かしながら考えていくべきではないかと思う。
会長	(2) アンケートの実施について 事務局から説明をお願いします。
事務局	資料3「姫路市立高等学校の在り方に関するアンケートについて」を用いて説明
会長	非常に大掛かりな調査になると思う。内容について、委員の皆様から忌憚のない御意見、御質問等をいただきたい。

委員	<p>調査対象について、可能であるならば卒業生については同窓会理事だけではなく、理事以外も含む方がより高校に対する思いが反映できると思う。また、色々な角度から検討しようとするならば市民へのアンケートや、改革をしようと思うと教員の意欲が必要だと思うので、教員のアンケートもできればしてほしいと思う。</p>
事務局	<p>卒業生へのアンケートについては、学校にも相談してこのような形にしているが、御意見を踏まえ、対応を考える。</p>
委員	<p>P 3 問 1 の選択肢について、「自分の学力に合っている」は行きたい学校選びの選択肢になっていない気がする。また、「落ち着いて学習できる」は例えば「安心・安全な教育環境がある」というような表現にするべきかと思う。</p> <p>P 4 問 4 の選択肢について、「精神的に自立した心」は表現に違和感を覚える。「社会のリーダーとなれる資質や能力」は、「社会のリーダーとなるための資質や能力」、「社会の変化に対応できる資質や能力」ではなく、「社会の変化に対応するための資質や能力」ではないかと思う。また、「部活動を通して身につく専門的な技術や健康な心身」とあるが、健康な心身は教育活動全体で身に付けるものであると思う。</p> <p>P 6 問 5 の選択肢について、この中には農業や家政がなく、専門教育が網羅されていないように思う。</p> <p>P 7 問 6 の選択肢のうち、「難関大学も含め」という表現は不要ではないか。また、「姫路市の活性化に貢献できる」とあるが、姫路市は既に素晴らしい街なので「姫路市の発展に貢献できる」が良いのではないか。「観光資源の魅力を自ら発信できる力」については発信だけではなく「観光資源の魅力づくりに貢献できる力」がより必要なのではないかと思う。</p>
事務局	<p>ご指摘を踏まえ再度検討する。</p>
委員	<p>中学生のアンケートについて、高等学校に進学することができない生徒に配慮した表現にしていきたい。</p>
事務局	<p>ご指摘を踏まえ表現を検討する。</p>

委員	卒業生の調査方法について、郵送する際はアンケート用紙に加え、趣旨説明等は用意するのか。
事務局	趣旨を書いた文書を付ける予定である。
委員	<p>P 3 問 1 にも「教育目標や校風に魅力がある」という選択肢を高校生同様入れておいたら良いかと思う。また、大学や企業との連携に力を入れているという選択肢もあれば良いと思った。</p>
事務局	<p>P 4 問 4 や P 6 問 4 について、今のような状況であれば、子供たちも自分たちに何ができるかとか、社会に貢献したいという気持ちに駆られている子供たちも多くいると思うので、社会に貢献できる力といった選択肢を入れても良いのではと思った。</p>
事務局	今のご意見を踏まえて修正する。
副会長	<p>類似の調査があれば他市と比較するとか、県の調査とあえて同じ項目にして市立と比較するなど、できるだけ指標や指軸を合わせながら比較すると姫路市の特徴が分かるのではないかと思う。</p>
事務局	<p>卒業生に対してだが、振り返って良さが分かるということがあると思うので、どういう力が社会に出て役立っているかといった卒業生だからこそできる項目を入れていただきたい。また、市内定着率を見る絶好の資料になると思うので、母数を増やすことが可能であれば増やした上で、回答者が今どこに住んでいるかという項目を入れていただきたい。市立高等学校でこれだけ地域に貢献する人材を育成したというエビデンスになるかもしれない。</p>
事務局	<p>今回実施するアンケートは、県の調査内容よりも幅広く尋ねている。また、他市のアンケートについてもある程度は参考にはしているが、全く同じようなものはないので、そこをカスタマイズしていく中で今回のようなものになっている。</p> <p>卒業生については、もう少し幅広く聞いてはどうだという意見をいただいているので、その点も踏まえながら検討する。</p>

会長	時間も押し迫っているので、もし何かあれば事務局にお伝えいただくようお願いする。
事務局	今回頂いた意見を踏まえ再度検討し、会長・副会長に確認していただいたうえで発送させていただければと思うがいかがか。
会長	そのようにする。このアンケートは業者に委託して行うのか。
事務局	事務局で直接実施する。兵庫県の電子申請共同運営システムを利用するよう考えている。
会長	本日は2つの議題について議論したが、全体を通して御意見・御質問等がある方はおられるか。
委員	アンケートについて、直接生徒や保護者に接しているのは中学校や高校の先生だと思うので、学校の先生の意見も参考にしようかと思う。
委員	中学生に対して「あなたは姫路市立高等学校について進学先として考えたことはありますか」という質問は、学力に自信がない生徒には答えにくいと思う。保護者も子供が市立高等学校に行く学力がないということは、普段から成績表を見て十分理解しているので、非常に答えにくいと思う。また、生徒や保護者の意見も大事だが、現場で毎日子供たちと接している先生方の意見を反映させることも非常に重要だと考える。
委員	市立3校は探究科学コースも国際文化科も健康福祉コースも3校それぞれ良いコースが揃っており、どれもとても必要だと思う。また、たとえ良い大学を卒業して、就職しても、精神面で辞めてしまうことがある為、中学生でいうトライやるウィークのような体験学習をする機会をさらに広げてほしい。在校生からもそのような声が上がってきている。他にも、もう少しコミュニケーションを上手に取れるような場や機会を作って、コミュニケーション力を鍛えてほしい。

委員	<p>市立高等学校は3校とも教育目標も得意とする学びも専門学科も違ううえ、優秀な成績を上げている部活動まで全て違う。また、3校の校長先生それぞれが自校は良いと説明されており、そうであれば3校とも現状のままが良いになってしまう。ただ、せっかく審議会を行っているので、普通科の学びは可視化しづらいが、探究科学と国際文化と健康福祉の3つの学びを姫路市の教育の売りとして今後も続けていくのか、あるいは今後深めていくためにどのような工夫が必要なのか考えていかななくてはならない。まずはこの3つの特色ある学科・コースを是々非々で考えていき、その後に設備や敷地について考えていかないといけない。いきなり建て替えについての話を進めることは難しいので、その積み上げをしてはどうかと思う。</p>
会長	<p>今年度末の答申について、どれぐらいの具体性を要望されているのか。</p>
教育長	<p>市立3校は探究科学、国際文化、健康福祉とそれぞれ特徴をもった学科・コースを設置し頑張っている。3校ともそれぞれ特色ある活動を積み上げてきているが、さらなる社会の変化の中でAIやITなどがさらに重要になるなど、現在の学科・コースよりもニーズのあるものが出てくる可能性もあり、今後どのようになるかは本当にわからない。そのため私は、これからの社会の中でどのような状況になっても、変化に対応して生き延びていく力をつけるための市立高等学校であってほしいと思っている。</p> <p>現在、市立高等学校は3校あるが、資料2において財政的な課題も挙げているように校舎や設備などに予算をかけ続けなくてはならない。県立高等学校はある程度統合の方向で進んでいくような印象も受けているが、姫路市としても3校を維持する方が良いのか、ある程度統合する必要があるのか、県教育委員会や県立高等学校との関係もあるのではなかなか難しいが、委員の皆さまには現状や生徒・保護者の意見などを踏まえながらある程度の方針を出していただければありがたいと思っている。</p>
会長	<p>本日の2つの議事はこれまでとする。 議事を事務局にお返しする。</p>
事務局	<p>4 連絡事項 次回、第3回審議会は11月8日（月）14時30分からを予定している。</p>

事務局

5 閉 会

以上で本日の審議会を終了する。